

みえの虹

三重県生活協同組合連合会
〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目135 ハイツフジタ1F

TEL 059-228-9913
FAX 059-228-9915

No.100

2013年9月

ふくしまの子ども 保養企画を開催しました



学生たちとの記念撮影 (三重大学にて)



三重に到着 (ふれあい牧場にて)



ミニソーラーカーづくり (三重大学にて)



アイスクリームづくり (ふれあい牧場にて)

←2ページをご覧ください→

協同組合原則

1995年9月マンチェスターでのICA大会で採択

- 自発的で開かれた組合員制
- 組合員による民主的管理
- 組合員の経済的参加
- 自治と自立
- 教育、訓練および広報
- 協同組合間協同
- コミュニティへの関与

夏の楽しいひと時を三重で過ごしました
〜ふくしま応援企画〜

被ばく積算量の心配をすることなく屋外でのびのびと遊び、体も心も元気を取り戻してもらいたい。そうした思いで、ふくしまの子どもたちを三重にお招きする企画が8月8日〜10日にわたって開催



搾乳体験（ふれあい牧場にて）

されました。福島県の生協組合員と子ども5家族15人が、四日市市、鈴鹿市、津市で夏の楽しいひと時を過ごしました。今回で4回目となるコープみえの取り組みに、三重県生協連と三重大学生協が協力しました。

8月8日午後、四日市市のふれあい牧場に到着した一行は四日市酪農のみなさんやコープみえ、三重県生協連の関係者の歓迎を受けました。牛の乳しぼり体験や手作りアイスクリーム、輪投げゲームをコープみえの組合員の子どもとともに楽し



表彰台での記念撮影（鈴鹿サーキットにて）

みました。翌日は鈴鹿サーキットを訪れ、レーシングコースの見学をはじめプールや遊園地で楽しく過ごしました。最終日は、三重大学で学生や三重県環境学習情報センターの方と一緒に、ミニソーラーカーづくりをはじめとした環境学習やゲームでおこないました。お昼には流しそうめんや焼肉をみんなで楽しみました。その後、三重



流しそうめんを楽しむ子どもたち（三重大学にて）

後にして福島へ帰られました。三重県生協連では、今後も会員生協と協力しながら被災地のみなさんの支援活動に取り組んでいきます。

ピースアクションinナガサキへ代表を派遣しました

三重県生協連では毎年、日本生協連が主催するピースアクションに代表を派遣しています。今年も平和活動委員会から代表を長崎へ派遣し、原爆被爆体験を聞き、平和のまち歩きを通じて原爆被害の実相を学びました。

参加者からは、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の平和宣言が強く印象に残りました。特に、今年4月にジュネーブで開催された核不拡散条

約再検討会議準備委員会で提出された『核兵器の非人道性を訴える共同声明』に80カ国が賛同したにもかかわらず、日本政府が署名しなかったことは被爆国としての原点に反する」とした長崎市長の言葉に共感を覚えまし

た。そして、被爆者が少なくなっていく中で、残された資料をもとに次世代につないでいくことの大切さを感じるとともに、私たちが平和活動委員会活動を通じて何ができるのかを考えていきたいです。」との感想が寄せられました。

三重県生協連では原爆被害の実相を次の世代につないでいくための取り組みを2013年も継続していきます。



平和記念式典



被爆の証言

みえジビエを使って鹿肉の調理方法を学びました

〜鹿肉を使った簡単フレンチ講習会〜

8月19日、三重県生協連、NPO法人地域と協同の研究センター、三重県の共催で三重

ビエ（注）を使ったフレンチ料理講習会を津市で開催しました。三重県では野生獣による農林産物の被害が深刻化する中で、さまざまな取り組みがおこなわれています。今回、野生獣肉が身近な食材であることや、適切な調理方法を学ぶ取り組みの一環として、講師に津市で日ごろから鹿肉料理を手掛けているフレンチレストランのシェフを迎え、一般、生協組合員計36名が参加しました。



グループにわかれて調理



調理のポイントを講師から聞く参加者



調理の説明のようす

説明と「みえジビエ」の紹介の後、津市内のフレンチレストラン ミュゼボンヴィヴァンの出口直希シェフが、前菜・スープ・メインの3品を調理しました。その後、参加者が各テーブルで調理。出口シェフも各テーブルを回り、調理の指導をおこないました。調理後、参加者が調理した料理とワインを食べながら交流し、「鹿肉は年中手に入るが調理方法

が思いつかなくて困っていたので参加して良かった。」「猪肉の料理講習会も開催してほしい。」との声も出されていました。

【みえジビエ】

三重県が策定した「みえジビエ」品質・衛生管理マニュアル」にもとづいて、捕獲・解体処理された鹿肉や猪肉の名称です。

3・11を忘れない！
みやぎ生協から被災地・宮城いまをお伝えします

2年半前と変わらない景色がある

震災から2年半が経過し宮城県の災害廃棄物の処理は82%まで終了しました。しかし津波浸水域にはいまま壊れた家や岸壁、海水に浸かったままの田んぼが残ります。

応急仮設住宅で3度目の夏を迎えた方々は9万6千人。県外への避難者8千4百人を加えると10万人が未だ仮の暮らしを余儀なくされています。

災害公営住宅は21市町で1万5千戸を建設する計画ですが、2年半を経過してもわずか102戸しか完成していません。被災した人たちが地域ごと移住する集団移転事業も、なかなか進んでいません。

漁業の再開率は震災前の約8割まで回復していますが、雇用の受け皿だった水産加工

工場の稼働率はまだ半分です。工場が再開されても、条件が整わずに就業に踏み切れないでいる人が多くいます。

さらに、沿岸部市町では人口流出が加速。女川町では居住人口が半分に減りました。内陸部の避難先で定住を決める人も多く、被災した自治体にとっては復興計画を左右する大きな課題になっています。

復旧・復興を妨げる問題が次々と起こり、計画がどんどん遅れていく。それが2年半を経過した被災地の現実です。

次回からは、個別問題について被災地の状況をお知らせする予定です。ホームページでも毎月お伝えします。

※数字は宮城県・水産庁・総務省等の12年12月末から13年7月末のデータに基づく。



2013年9月1日気仙沼市 災害廃棄物はなくなったものの、一面、夏草が茂っています。

情報提供／みやぎ生協

会員だより

コープみえ・みえ医療福祉生協

みえっぴいがふくしまの子どもたちと触れ合いました。

コープみえ

7月27～28日、昨年に続き2回目の「ふくしまキッズ博」が福島市で開催され、コープふくしまの呼びかけで全国の生協のキャラクターが集まりました。コープみえからもみえっぴいが参加し、福島の子どもたちとふれあいました。このイベントは、福島第一原発事故で野外活動が制限されている子どもたちに楽しんでもらおうと、(公財)福島県都市公園・緑化協会、福島市、浪江町、飯館村、福島民報社などでつくる実行委員会が主催。会場は、多くのおもちゃやゲームであふれ、キャラクターショーや大道芸なども行われました。2日間で2万4千人の親子が来場されました。



手作り料理と食事会を開催しました

みえ医療福祉生協

7月22日(月) 人気行事にもなっている食事会を民主医療診療所2階調理室で9人が参加して開きました。安価で手軽にできて、でも家で作っているのとはちょっと違う、そんな物をと思考を凝らしています。今年は「志摩の海女さんの手こね寿司」その他4品を作りました。連日の猛暑のせい、例年より参加者は少なかったのですが、みなさん家庭のプロですから要領よく早くできてすごく美味しかったです。二、三日の内には参加者のどの家庭でもメニューにあがる事請け合いです。場所もせまく、調理用品も揃っていないので大変です。でも、作る事も食べる事も楽しいので、また来年という行事になっています。



〈伊勢地域 中島支部〉

三重県からのお知らせ

食の安全 安心ミニ情報

きのこによる食中毒防止の鉄則

- ・確実に鑑定されたもの以外は絶対に食べない!
- ・食べられるものを採る場合でも有毒なものが混入しないように気をつける!
- ・凶鑑の写真や絵に当てはめて勝手に鑑定しない!
- ・有毒植物は新芽や根のみでは専門家でも鑑別が難しいこと、きのこは発生時期や発生場所により形が変わることがあることをはっきり認識する



理事会だより

第2回理事会

2013年8月6日(火) 13:30～15:45 三重県生協連事務所
出席理事6名、欠席理事2名、欠席監事2名

協議事項

1. 消費者被害防止の取り組みに向けて

報告事項

1. 機関会議の報告
2. 活動の報告
3. 日本生協連、県、諸団体等の会議報告
4. 第37回通常総会終了届、代表理事変更登記終了報告
5. 2013年ハート平和行進関係報告
6. 日本生協連2013年ピースアクションへの県連代表参加について
7. 福島の子どもたちを三重にお招きする企画について
8. みえフードイノベーション(ノリ部会)懇談会 委員委嘱要請と対応
9. 消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰について
10. 第36回東海北陸生協行政合同会議への参加者について